

を示唆する. 国立病院機構長崎医療センター形
成外科. 第 63 回 国立病院総合医学会
2009. 10. 23-24 (仙台)

- 12) 藤岡正樹, 岡潔, 北村理子, 矢加部文, 増田佳奈,
今村禎伸. 頭頸部癌再建後に生じた carotid
blowout syndrome に対し緊急血管内治療で救命
した 2 例. 第 27 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術
集会. 2009. 11. 19-20(東京)
- 13) 藤岡正樹, 増田佳奈, 今村禎伸. 医療被曝に起
因する難治性放射線潰瘍の検討と治難療方針.
第 17 回地域医療外科系連合会 2009. 11. 28 (さ
いたま)

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定も含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

HIV 関連 Lipodystrophy に対する脂肪幹細胞移植と創部管理について

分担研究者： 吉本 浩 長崎大学医学部形成外科

研究要旨

HIV 関連 Lipodystrophy に対する脂肪幹細胞移植の術前後の管理の問題について放射線治療潰瘍に対して脂肪幹細胞移植を行った症例を参考にして検討した。

A. 研究目的

脂肪幹細胞移植は患者自身の脂肪組織を採取し、その脂肪組織から抽出した脂肪幹細胞を患者に移植する手術方法である。その際、患者の負担軽減のために脂肪組織の採取は皮膚に小切開を加え特殊な器具で吸引採取する方法で行うが、ブラインド操作であり、術後の出血が懸念される。一方 HIV 関連 Lipodystrophy の患者は基礎疾患に血友病を罹患していることが多く、それらの患者では血液凝固能が障害され、凝固因子の補充が必要である。

今回、放射線潰瘍に対して脂肪幹細胞移植の術前後の管理を参考に、HIV 関連 Lipodystrophy の患者に脂肪幹細胞移植術前後の全身および管理の方法について検討した。

B. 研究方法

当科では 2008 年 12 月から現在までに放射線潰瘍に対して脂肪幹細胞移植を 5 例実施している。脂肪採取部位と術後出血や血腫の有無および創部のドレッシングについて検討した。

(倫理面への配慮)

脂肪幹細胞移植は長崎大学倫理委員会で審査承認済みである。

C. 研究結果

症例は 52 歳から 89 歳までの女性 5 名で平均年齢は 71 歳であった。脂肪幹細胞移植部位は仙骨部 2 例、前胸部 2 例、頸部 1 例でいずれも放射線潰瘍であった。脂肪採取部位は大腿内側部 4 例、腹部 4 例、側腹部 3 例、臀部 1 例であった。(採取部が 1 患者に対して複数ある。) 採取部位に約 5 ミリ前後の切開を加え脂肪組織を専用の器具で採取した。切開部は 1 針縫合し透明なフィルムドレッシングを貼付し術後観察が出来るようにし圧迫はしなかった。手術終了時あるいは帰室時に縫合部より出血がある場合はフィルムドレッシングからガーゼに交換した。手術後毎日フィルムドレッシングあるいはガーゼを毎日交換し採取部位の観察を行ったが、新たな出血および血腫の形成はなく全例術後 7 日目で抜糸でき、特に問題は生じなかった。採取部の皮下出血は術翌日より全例に認められたが皮下出血の拡大はなく徐々に吸収され、術後 1 カ月の時点で疼痛やしびれなどの自覚症状の訴え

はなかった。

2nd International workshop on Wound
Technology. January, 2010, Paris, France.

D. 考察

脂肪幹細胞抽出のための現在行っている脂肪組織の採取方法は低侵襲であり患者の負担も少ないが、操作がブライドで術後出血および血腫が危惧される。今回の5例全例、術後出血および血腫は認めなかったのので、現在の脂肪組織採取方法は問題ないと考えられる。したがって HIV 関連 Lipodystrophy に対する脂肪幹細胞移植に際しては血液凝固能の評価と維持が重要であり、術後は術創部よりの出血量に応じてガーゼあるいはフィルムドレッシングなどを使い分け毎日の観察が必要と考えられる。

E. 結論

HIV 関連 Lipodystrophy に対する脂肪幹細胞移植において脂肪採取部の術後出血や血腫予防には凝固因子の補充を含めた血液凝固能の維持および毎日の術創の観察が必要不可欠であり、それらが満たされれば、現在の脂肪組織採取の術式は低侵襲であり非常に有用と考えられる。

F. 健康危機情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 吉本浩, 平野明喜: 褥瘡手術後の管理と再発予防: 殿部・会陰部の再建と褥瘡の治療 最近の進歩、波利井清紀監修、野崎幹弘編著、223-231 克誠堂出版 2009年

2. 学会発表

1. H. Yoshimoto, A. Hirano, S. Akita:
Autologous Adipose-derived Stem Cell
Therapy for Chronic Radiation Injuries.

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定も含む。)

1. 特許取得

無し

2. 実用新案登録

無し

3. その他

無し

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
HIV 関連 Lipodystrophy の克服に向けて
平成 21 年度 分担研究報告書

臨床評価：周術期管理の評価

分担研究者： 今西大介 長崎大学病院血液内科 助教
宮崎泰司 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
原研内科 教授

研究要旨

Lipodystrophy は抗 HIV 薬の長期服用によって出現する有害事象であり、それ自体は生命予後への影響は少ないが、顔貌の変化などに伴う患者の精神的負担は大きく、QOL の視点からは軽視できない問題である。自家脂肪幹細胞移植は HIV 関連 Lipodystrophy に対する有効な治療法として期待されており、血友病治療関連合併症として HIV を発症し、抗ウィルス療法に伴って Lipodystrophy を併発した場合もその対象となりうる。ただし、血友病治療関連 HIV 患者が外科的治療を受ける場合には、術中、術後の出血を予防するために慎重に周術期管理を行う必要がある。我々は、血友病治療関連 HIV 患者に合併した Lipodystrophy に対して、自家脂肪幹細胞移植を施行した 2 症例を経験した。脂肪採取手技は鈍的であるものの、非直視下手術となるため確実な止血操作が困難であったが、凝固因子製剤を十分に投与することによって重篤な出血を予防することが可能であった。血友病治療関連 HIV 患者の Lipodystrophy における自家脂肪由来幹細胞移植時の周術期管理について、今回の治療経験をもとに検討を行った。

A. 研究目的

Lipodystrophy はプロテアーゼ阻害薬を代表とする抗 HIV 薬の長期服用によって出現する有害事象である。生命予後への影響は少ないが、顔貌の変化などに伴って QOL の低下を来すため、有効な治療法の確立が望まれている。自家脂肪幹細胞移植は Lipodystrophy に対する有効な治療法として期待されており、血友病治療関連 HIV 患者が合併した場合もその対象となりうる。今回我々は、血友病治療関連 HIV 患者の

Lipodystrophy を 2 症例経験した。血友病に伴う周術期の出血が問題となるため、血液内科の立場から本研究に参加し、適切な周術期の管理方法について検討することが本研究の目的である。

B. 研究方法

病歴を詳細に聴取し、診察および検査を十分に行って、患者の指導内容や凝固因子製剤の投与量を決定した。周術期の合併症の有無について慎重に観察し、適切な対処を行った。

(倫理面への配慮)

研究の実施にあたっては臨床研究に関する倫理指針、ヒト幹細胞を用いる臨床研究に関する指針を遵守し、研究対象者に対する人権擁護上の配慮、研究方法による研究対象者に対する不利益、危険性の排除に留意した。

C. 研究結果

症例1は30歳の男性。血友病AでⅧ因子活性は3.1%、インヒビターは陰性でⅧ因子製剤を1回1000単位、週2回定期的に自己注射していた。15年程前から抗HIV薬を内服中で、血中HIVRNAは感度以下、CD4実数は523/uLであった。HCV抗体も陽性であった。自家脂肪幹細胞移植術当日(Day1)の脂肪採取直前にⅧ因子製剤50単位/kg静注、Day2～Day4にⅧ因子製剤を3単位/kg/時で持続静注、Day4～Day8にⅧ因子製剤1000単位を1日2回静注し、Day7に抜糸した。Day8以降は術前と同様にⅧ因子製剤を自己注射した。上記加療によって、Ⅷ因子活性を手術当日は100%、その後抜糸まで50%以上に維持した。出血は軽度で、重篤な合併症は認めなかった。

症例2は47歳の男性。血友病AでⅧ因子活性は4.0%、インヒビターは陰性でⅧ因子製剤を1回1000単位、月に1～2回、出血時に自己注射していた。10年前から抗HIV薬を内服中で、血中HIVRNAは感度以下、CD4実数は879/uLであった。HCV抗体も陽性であった。自家脂肪幹細胞移植術当日(Day1)の脂肪採取直前にⅧ因子製剤50単位/kg静

注、Day1～Day3にⅧ因子製剤5単位/kg/時で持続静注、Day3～Day8にⅧ因子製剤1000単位を1日2回静注し、Day8に抜糸した。Day9以降は術前と同様にⅧ因子製剤を自己注射した。上記加療によってⅧ因子活性を手術当日は100%、その後抜糸まで50%以上に維持した。出血は軽度で、重篤な合併症は認めなかった。

D. 考察

2症例とも血友病Aに伴ってⅧ因子活性が低下していたため、日本血栓止血学会のガイドラインに準じて、移植当日にⅧ因子製剤を50単位/kg静注後、3～5単位/kg/時で持続静注し、Ⅷ因子活性を手術当日は100%、その後抜糸まで50%以上に維持した。凝固因子を補充すれば正常な凝固作用機序によって止血することが可能だが、補充が不十分の場合は10%以上の症例で術後出血を生じることがあるため、凝固因子製剤の投与量を慎重に検討する必要がある。本症例においては、出血は軽度で術後経過も良好であり、適切な補充療法が行われたものと考えられる。また、術後の安静が保てる様に患者の指導に配慮したことも本治療を安全に遂行できた要因と考えられる。個々の患者に応じて状態を総合的に評価し、適切な周術期管理を行うことが重要である。

E. 結論

血友病治療関連HIV患者に合併したLipodystrophyに対して、自家脂肪幹細胞移植を施行した。非直視下で脂肪採

取を行ったため確実な止血操作が困難であったが、凝固因子製剤を十分に投与することによって、重篤な出血を予防することができた。本治療を安全に施行するためには、病歴、身体所見、検査所見などを参考にして患者の状態を総合的に評価し、適切な周術期管理を行うことが重要と考えられる。今後はさらに症例を蓄積し、より安全で有効な周術期の管理を行っていきたいと考える。

F. 健康危機情報

無し

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 宮崎泰司、栗山一孝：骨髄移植（造血幹細胞移植）。（花岡炳雄、永倉俊一編集、臨床 分子細胞生物学，メディカルレビュー社，東京，pp255-266 所収）2009.
2. 宮崎泰司：I. 急性白血病 1.急性骨髄性白血病。（直江知樹編集、現場で役立つ血液腫瘍治療プロトコル集，医薬ジャーナル社，東京，pp9-28 所収）2009.
3. 宮崎泰司：I. 赤血球の疾患 9.WHO分類第4版による骨髄異形成症候群（MDS）の診断（金倉 譲，木崎昌弘，鈴木律朗，神田善伸編集，2010-2011 EBM 血液疾患の治療，中外医学社，東京，pp45-49，所収）2009.
4. 宮崎泰司，朝長万左男：（血液・造血器疾患／白血球系を主病変とする疾患）慢性骨髄性白血病（小川 聡総編集，小澤敬也，祖父江元部門編集，改訂第7版内科学書 Vol.6 血液・造血器疾患神経疾患，中山書店，東京，pp122-126，所収）2009.
5. 宮崎泰司、栗山一孝：11.急性骨髄性白血病(Acute Myeloid Leukemia:AML) (M2,M3 除く)(吉田彌太郎編集，血液疾患診療ハンドブック—診療の手引きと臨床データ集—，医薬ジャーナル社，大阪，pp130-156，所収)2009.
6. 宮崎泰司：6. 急性骨髄性白血病および関連前駆細胞性腫瘍. 2) 骨髄異形成に関連した変化を有する AML (押味和夫監修，木崎昌弘，田丸淳一編集，WHO 分類第4版による白血病・リンパ系腫瘍の病態学，中外医学社，東京，pp125-128，所収) 2009.
7. 宮崎泰司：6. 急性骨髄性白血病および関連前駆細胞性腫瘍. 3) 治療関連骨髄性腫瘍 (押味和夫監修，木崎昌弘，田丸淳一編集，WHO 分類第4版による白血病・リンパ系腫瘍の病態学，中外医学社，東京，pp128-130，所収) 2009.
8. 宮崎泰司、朝長万左男：[2. 白血病系疾患] 3. 慢性骨髄性白血病. (北村聖総編集，臨床病態学第一巻，第四版ヌーヴェルヒロカワ，東京，pp613-615，所収)2009.
9. 宮崎泰司、朝長万左男：[2. 白血病系疾患] 4. 慢性増殖性疾患. (北村聖総編集，臨床病態学第一巻，第四版ヌーヴェルヒロカワ，東京，pp615-617，所収)2009.
10. 宮崎泰司、朝長万左男：[2. 白血病系疾患] 7. 白血球増加症. (北村聖総編集，臨床病態学第一巻，第四版ヌーヴ

エルヒロカワ,東京,pp619-620,所収)2009.

11. 宮崎泰司、朝長万左男 : [2. 白血病系疾患] 8. 白血球減少症. (北村聖総編集,臨床病態学第一巻,第四版ニューヴェルヒロカワ,東京,pp620-621,所収)2009.

12. 宮崎泰司、朝長万左男 : [2. 白血病系疾患] 10. 骨髄線維症(北村聖総編集,臨床病態学第一巻,第四版ニューヴェルヒロカワ,東京,pp622,所収)2009.

13. Sakai M, Miyazaki Y, Matsuo E, Moriuchi Y, Hata T, Fukushima T, Imaizumi Y, Imanishi D, Taguchi J, Iwanaga M, Tsushima H, Inoue Y, Takasaki Y, Tsuchiya T, Komoda M, Ando K, Horio K, Moriwaki Y, Tominaga S, Itonaga H, Nagai K, Tsukasaki K, Tsutsumi C, Sawayama Y, Yamasaki R, Ogawa D, Kawaguchi Y, Ikeda S, Yoshida S, Onimaru Y, Tawara M, Atogami S, Koida S, Joh T, Yamamura M, Matsuo Y, Soda H, Nonaka H, Jinnai I, Kuriyama K, Tomonaga M. : Long-term efficacy of imatinib in a practical setting is correlated with imatinib trough concentration that is influenced by body size: a report by the Nagasaki CML Study Group. *Int J Hematol*, 89(3):319-325, 2009

14. Sakamaki H, Ishizawa K, Taniwaki M, Fujisawa S, Morishima Y, Tobinai K, Okada M, Ando K, Usui N, Miyawaki S, Utsunomiya A, Uoshima N, Nagai T, Naoe T, Motoji T, Jinnai I, Tanimoto M, Miyazaki Y, Ohnishi K, Iida S, Okamoto S, Seriu T, Ohno R. : Phase 1/2 clinical study

of dasatinib in Japanese patients with chronic myeloid leukemia or Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia. *Int J Hematol*. 89(3):332-41. 2009

15. Tojo A, Usuki K, Urabe A, Maeda Y, Kobayashi Y, Jinnai I, Ohyashiki K, Nishimura M, Kawaguchi T, Tanaka H, Miyamura K, Miyazaki Y, Hughes T, Branford S, Okamoto S, Ishikawa J, Okada M, Usui N, Tanii H, Amagasaki T, Natori H, Naoe T. : A Phase I/II study of nilotinib in Japanese patients with imatinib-resistant or -intolerant Ph+ CML or relapsed/refractory Ph+ ALL. *Int J Hematol*. 89(5):679-88, 2009

16. 宮崎泰司 : 第IV版 WHO 分類によるMDS の分類と診断. 血液・腫瘍科 59(1):13-19,2009

17. Doi Y, Sasaki D, Terada C, Mori S, Tsuruda K, Matsuo E, Miyazaki Y, Nagai K, Hasegawa H, Yanagihara K, Yamada Y, Kamihira S. : High-resolution melting analysis for a reliable and two-step scanning of mutations in the tyrosine kinase domain of the chimerical bcr-abl gene. *Int J Hematol*. 90(1):37-43, 2009

18. Ishikawa Y, Kiyoi H, Tsujimura A, Miyawaki S, Miyazaki Y, Kuriyama K, Tomonaga M, Naoe T. : Comprehensive analysis of cooperative gene mutations between class I and class II in de novo acute myeloid leukemia. *Eur J Haematol*. 83(2):90-8,2009

19. 石川裕一、清井仁、辻村朱音、宮崎泰司、朝長万左男、栗山一孝、宮脇修

- 一、直江知樹：WHO 分類に基づく急性骨髄性白血病における網羅的遺伝子変異の解析. 臨床血液 50(8) : 597-603,2009
20. 宮崎泰司：JALSG における急性骨髄性白血病治療研究. 臨床血液 50(8):611-616,2009
21. 宮崎泰司、波多智子：輸血後鉄過剰症とその治療. 日本医事新報 No.4462,p51-55,2009
22. Matsuda A, Germing U, Jinnai I, Araseki K, Kuendgen A, Strupp C, Iwanaga M, Miyazaki Y, Hata T, Bessho M, Gattermann N, Tomonaga M : Differences in the distribution of subtypes according to the WHO classification 2008 between Japanese and German patients with Refractory Anemia according to the FAB classification in Myelodysplastic Syndromes. Leukemia Res. in press.
23. Morita Y, Kanamaru A, Miyazaki Y, Imanishi D, Yagasaki F, Tanimoto M, Kuriyama K, Kobayashi T, Imoto S, Ohnishi K, Naoe T, Ohno R : Comparative analysis of remission induction therapy for high-risk MDS and AML progressed from MDS in the MDS200 study of Japan Adult Leukemia Study Group. Int J Hematol, 91(1):97-103,2010.
24. Ohtake, S.,Miyawaki, S., Kiyoi, H., Miyazaki, Y.,Okumura, H., Matsuda, S., Nagai, T., Kishimoto, Y.,Okada, M.,Takahashi, M.,Honada H., Takeuchi, J., Kageyama, S.,Asou, N.,Yagasaki, N., Maeda, Y., Ohnishi, K., Naoe, T, Ohno, R: Randomized Trial of Response-Oriented Individualized versus Fixed Schedule Induction Chemotherapy with Idarubicin and Cytarabine in Adult Acute Myeloid Leukemia: The JALSG AML95 Study. Int J Hematol. in press.
25. Sakamaki, H.,Miyawaki,S.,Ohtake, S.,Ygasaki, F.,Mitani, K.,Matsuda ,S., Kishimoto,Y.,Miyazaki,Y.,Asou, N., Takahashi, M., Ogawa, Y., Honda, S., Ohno, R :Allogeneic Stem Cell Transplantation versus Chemotherapy as Post-remission Therapy for Intermediate or Poor Risk Adult Acute Myeloid Leukemia: Results of the JALSG AML97 Study. Int J Hematol : in press.
2. 学会発表
1. Araseki K, Matsuda A, Germing U, Jinnai I, Kuendgen A, Iwanaga M, Miyazaki Y, Hata T, Bessho M, Gattermann N, Tomonaga M. : Differences in the distribution of subtypes according to the WHO classification 2008 between Japanese and German patients with refractory anemia according to the FAB classification in myelodysplastic syndromes. The 10th International Symposium on Myelodysplastic Syndromes(MDS) May6-9,2009. (Leukemia Res 33(Suppl1):S66,2009)
2. 今泉芳孝、今西大介、田口潤、福島卓也、波多智子、宮崎泰司、塚崎邦弘、朝長万左男、小川大輔、新野大介、大島孝一：リンパ節病変にクリプトコッカス感染症を伴った成人 T 細胞白血病リンパ腫. 第 49 回日本リンパ網内系学会総会,2009.7.9-11.兵庫県淡路島.(日本

リンパ網内系学会誌 49:120, 2009)

3. 糸永英弘、今泉芳孝、堀尾謙介、土屋健史、新野大介、今西大介、田口潤、福島卓也、波多智子、宮崎泰司、塚崎邦弘、大島孝一、朝長万左男：紅皮症と末梢血中に脳回様の核不整を有する異常リンパ球を認めた CD4,CD25, CCR4 陽性の Lennert 病変を伴う

Perioheral T-cell lymphoma not otherwise specified. 第 49 回日本リンパ網内系学会総会,2009.7.9-11.

兵庫県淡路島.(日本リンパ網内系学会誌 49:125, 2009)

4. 宮崎泰司 : CML 治療の現状とこれから. 九州分子・細胞治療研究会,2009.9.12, 福岡(九州分子・細胞治療研究会記録集 p4-7,2009)

5. 宮崎泰司 : 急性骨髄性白血病の場合 -JALSG の経験から. 第 71 回日本血液学会学術集会.2009.10.23.京都.(臨床血液 50(9) : p846,2009)

6. Araseki Kayano, Matsuda Akira, Jinnai Itsuro, Bessho Masami, Iwanaga Masako, Hata Tomoko, Miyazaki Yasushi, Germing Ulrich, Tomonaga Masao : MDS subtypes according to the WHO classification 2008 in Japanese and German FAB-RA patients. 第 71 回日本血液学会学術集会.2009.10.24.京都.(臨床血液 50(9) : p947,2009)

7. 高橋直人、小笠原 仁、波多野善明、北野 淳、黒木 淳、脇田 久、石毛憲治、橋本真一郎、柏村 眞、藤川一壽、深沢元晴、片山俊夫、西井一浩、門間文彦、劉 冰、片山直之、増子正義、成田美和子、古川達雄、境 麻里、

宮崎泰司、前田裕弘、浦瀬文明、澤田賢一：日本人慢性期 CML314 症例のイマチニブ血中濃度と治療効果：国内 6 研究グループのデータの統合. 第 71 回日本血液学会学術集会.2009.10.24.京都.(臨床血液 50(9) : p953,2009)

8. Kawaguchi Tetsuya, Usuki Kensuke, Tojo Arinobu, Ohyashiki Kazuma, Maeda Yasuhiro, Jinnai Itsuro, Kobayashi Yuriko, Miyamura Koichi, Tanaka Hideo, Miyazaki Yasushi, Amagasaki Taro, Kawahara Eiji, Yanada Masamitsu, Naoe Tomoki. : Cytogenetic and molecular response to Imatinib in chronic-phase CML after failure of imatinib. 第 71 回日本血液学会学術集会.2009.10.24.京都.(臨床血液 50(9) : p955,2009)

9. 石澤賢一、坂巻 壽、谷脇雅史、藤澤 信、森島泰雄、飛内賢正、岡田昌也、安藤 潔、薄井紀子、宮脇修一、宇都宮 與、魚嶋伸彦、永井 正、直江知樹、泉二 登志子、陣内逸郎、谷本光音、宮崎泰司、大西一功、飯田真介、岡本真一郎、芹生 卓、大野竜三：ダサチニブの慢性骨髄性白血病及び Ph +ALL に対する臨床第 1/2 相試験の 2 年追跡成績. 第 71 回日本血液学会学術集会.2009.10.24. 京都.(臨床血液 50(9) : p956,2009)

10. 谷口広明、田口 潤、牧山純也、土屋健史、今西大介、今泉芳孝、福島卓也、波多智子、新野大介、大島孝一、宮崎泰司、塚崎邦弘、朝長万左男：当施設で経験した Enteropathy-associated T-cell lymphoma(EATL)の 3 例. 第 71 回日本血液学会学術集

会.2009.10.23.京都.(臨床血液 50(9) : p1050,2009)

11. 糸永英弘、宮崎泰司、田口 潤、今泉芳孝、福島卓也、波多智子、塚崎邦弘、朝長万左男：同種造血幹細胞移植後のATL及びAML,ALL症例で生じたCMV抗原血症の後方視的比較検討. 第71回日本血液学会学術集会.2009.10.23.京都.(臨床血液 50(9) : p1081,2009)

12. 牧山純也、田口 潤、糸永英弘、今泉芳孝、今西大介、福島卓也、波多智子、宮崎泰司、塚崎邦弘、朝長万左男：急性リンパ性白血病に対する同種末梢造血幹細胞移植後寛解後に発症した多発性骨髄壊死. 第71回日本血液学会学術集会.2009.10.23.京都.(臨床血液 50(9) : p1093,2009)

13. 富永信也、宮崎泰司、糸永英弘、堀尾謙介、土屋健史、今泉芳孝、今西大介、田口 潤、福島卓也、波多智子、長井一浩、塚崎邦弘：長期イマチニブ投与後にマントル細胞リンパ腫を合併した慢性骨髄性白血病の一例. 第71回日本血液学会学術集会.2009.10.25.京都.(臨床血液 50(9) : p1223,2009)

14. 今西大介、宮崎泰司、糸永英弘、堀尾謙介、田口 潤、城 達郎、波多智子、朝長万左男：ニロチニブにより分子学的完全寛解が得られたIFN α 及びイマチニブ抵抗性慢性骨髄性白血病の1症例. 第71回日本血液学会学術集会.2009.10.25.京都.(臨床血液 50(9) : p1226,2009)

15. 大橋一輝、石澤賢一、飛内賢正、谷脇雅史、森島泰雄、岡田昌也、宮脇修一、魚嶋伸彦、直江知樹、泉二登志子、

藤澤 信、安藤 潔、薄井紀子、宇都宮 與、永井 正、谷本光音、宮崎泰司、岡本真一郎、芹生 卓、坂巻 壽、大野竜三：ダサチニブ投与患者におけるリンパ球数増加とその臨床的特徴. 第71回日本血液学会学術集会.2009.10.25.京都.(臨床血液 50(9) : p1259,2009)

16. 糸永英弘、田口潤、堀尾謙介、今泉芳孝、今西大介、吉田真一郎、福島卓也、波多智子、宮崎泰司：骨髄線維化を伴った造血器悪性腫瘍3例に対する骨髄非破壊的臍帯血移植. 第32回日本造血細胞移植学会総会. 2010.2.19. 静岡(浜松)

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定も含む。)

1.特許取得

無し

2.実用新案登録

無し

3.その他

無し

研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表
(2009年4月1日～2010年3月31日迄)

書籍

| 著者氏名 | 論文タイトル名 | 書籍全体の編集者名 | 書籍名 | 出版社名 | 出版地 | 出版年 | ページ |
|------|-----------|-----------|-----|-------------|-----|-----|-----|
| | Editorial | | | Editions MF | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

雑誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|---------|--|-----------------------------|----|-----------|------|
| Akita S | Editorial | Journal of Wound Technology | 4 | 4 | 2009 |
| Akita S | Surgical debridement | Journal of Wound Technology | 5 | | 2009 |
| 秋田定伯 | 【Regenerative Medicine 期待される 21 世紀の新しい医療】 感覚器・皮膚・粘膜 皮膚の再生医療の実際と課題 | 総合臨床 | 58 | 118-123 | 2009 |
| 秋田定伯 | 特集 昨日の常識は今日の非常識 【昨日の常識】 創(キズ)は乾燥させ消毒薬をつける→【今日の常識】 創傷管理の基本は湿潤環境で、創は生理的食塩水などでよく洗浄する | 治療 | 91 | 2836-2837 | 2009 |

| | | | | | |
|---|---|--------------------|----------|-----------|----------|
| 秋田定伯、平野明喜 | 特集 口唇裂二次修正術 2.鼻翼基部 顎裂骨移植の有用性 | PAPERS | 28 | 30-37 | 2009 |
| 秋田定伯 | 【特集】細胞増殖因子と創傷治療 白血病抑制因子(LIF) | 形成外科 | 52 | 491-499 | 2009 |
| 秋田定伯 | 【ケロイド・肥厚性瘢痕瘻痕の最新の治療】ケロイド・肥厚性瘢痕瘻痕の評価・分類 国際比較 | PAPERS | 33 | 1-6 | 2009 |
| | | | | | |
| 秋田定伯 | 【血管奇形の治療戦略】静脈奇形の硬化療法 硬化剤の選択について | 形成外科 | 52 | 1161-1171 | 2009 |
| 境 隆博、田崎公、倉富英治、中野 基、安楽邦明、秋田定伯、矢野浩規、田中克己、平野明喜 | 8字真皮縫合法の検討 | 形成外科 | 52 | 451-456 | 2009 |
| Akita S, Akino K, Yakabe A, Tanaka K, Anraku K, Yano H, Hirano A. | A basic fibroblast growth factor is beneficial for post-operative color analysis In split-thickness skin grafting | Wound Repair Regen | in press | in press | in press |
| Akita S, Akino K, Hirano A, Ohtsuru A, Yamashita S | Mesenchymal stem cell therapy for cutaneous radiation syndrome | Health Physics | in press | in press | in press |

研究成果の刊行に関する一覧表
(2009年4月1日～2010年3月31日迄)

書籍

| 著者氏名 | 論文タイトル名 | 書籍全体の編集者名 | 書籍名 | 出版社名 | 出版地 | 出版年 | ページ |
|------|---------|-----------|-----|------|-----|-----|-----|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

雑誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|-------|--|----------|----|-------|------|
| 吉野宗宏 | 硫酸アタザナビルの血中濃度が高値の患者を対象とした、ATV/r から ATV400 へのスイッチ臨床試験結果 | 日本エイズ学会誌 | 11 | 50-53 | 2009 |
| 吉野宗宏 | ロピナビル・リトナビル配合剤 (LPV/r) の1日2回から1日1回投与へのスイッチ臨床試験結果 | 日本エイズ学会誌 | 11 | 80-84 | 2009 |
| | | | | | |
| | | | | | |

研究成果の刊行に関する一覧表
(2009年4月1日～2010年3月31日迄)

書籍

| 著者氏名 | 論文タイトル名 | 書籍全体の編集者名 | 書籍名 | 出版社名 | 出版地 | 出版年 | ページ |
|------|---------|-----------|-----|------|-----|-----|-----|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

雑誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|--|---|------------------|---------|---------|------|
| Watanabe T, Yasuoka A, Tanuma J, Yazaki H, Honda H, Tsukada K, Honda M,Gatanaga H, Teruya K, <u>Kikuchi Y</u> , Oka S. | Serum (1->3) beta-D-glucan as anoninvasive adjunct marker for the diagnosis of Pneumocystis pneumonia in patients with AIDS. | Clin Infect Dis. | 49(7) | 1128-31 | 2009 |
| Kamimura M, Watanabe K, Kobayakawa M, Mihara F, Edamoto Y, Teruya K, <u>Kikuchi Y</u> , | Successful absorption of antiretroviral drugs after gastrojejunal bypass surgery following failure of therapy through a | Intern Med. | 48(12): | 1103-4 | 2009 |

| | | | | | |
|--------------------------------------|-----------------------------------|-----------|---------|------------|------|
| Oka S. | jejunal tube. | | | | |
| 小池和彦、菊池 嘉、安岡 彰、 山中 晃、後藤 耕司. | HIV 感染症に合併す る日和見感染症の現 状と治療. | 日本内科学会雑誌. | 98(11): | 2849-2869, | 2009 |

研究成果の刊行に関する一覧表
 (2009年4月1日～2010年3月31日迄)

書籍

| 著者氏名 | 論文タイトル名 | 書籍全体の編集者名 | 書籍名 | 出版社名 | 出版地 | 出版年 | ページ |
|------|-----------|-----------|---------------------------------------|------|-----|--------|---------------------|
| 山本有平 | 企画にあたって | 山本有平 | 形成外科診療プラクティスシリーズ「形成外科医に必要な皮膚腫瘍の診断と治療」 | 文光堂 | 東京 | 2009.4 | 巻頭 Total299 |
| 古川洋志 | 悪性線維性組織球腫 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 59-60 Total299 |
| 山本有平 | 広範囲切除 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 178-179 Total299 |
| 古川洋志 | 腋窩郭清術 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 188-190 Total299 |
| 山本有平 | 下眼瞼 局所皮弁1 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 234-235 Total299 |
| 山本有平 | 内眼角部 局所皮弁 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 239-240 Total299 |
| 古川洋志 | 頬 局所皮弁 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 254-256 Total299 |
| 古川洋志 | 母指 遊離皮弁 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 282-283 Total299 |
| 山本有平 | 膝 局所皮弁 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 287-288 Total299 |
| 山本有平 | 下腿 遊離皮弁 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 同上 | 289-290 Total299 |

| | | | | | | | |
|------|-------------|---------------|--|-------|----|---------|---------|
| 山本有平 | 顔面における皮下茎皮弁 | 波利井清紀 田原真也 | 形成外科 ADVANCE シリーズ II-6 各種局所皮弁による顔面の再建 最近の進歩 | 克誠堂出版 | 東京 | 2009.11 | 101-107 |
|------|-------------|---------------|--|-------|----|---------|---------|

雑誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|--|---|---------------------------|----|-----------|------|
| 山本有平、野平久仁彦 | 乳房縮小術：superior pedicle & vertical scar | PEPARS | 31 | 62-67 | 2009 |
| 古川洋志、齋藤亮、林利彦、山本有平、本間明宏、福田諭、古田康、関堂充 | ネットワーク型再建による耳下腺癌切除後の顔面神経即時再建 | 頭頸部癌 | 35 | 217-222 | 2009 |
| 古川洋志、山本有平 | 血管奇形の治療戦略. 5. 四肢・体幹部動静脈奇形 | 形成外科 | 52 | 1193-1199 | 2009 |
| Saito N, Hamada J, Furukawa H, Tsutsumida A, Oyama A, Funayama E, Saito A, Tsuji T, Tada M, Moriuchi T, Yamamoto Y | Laminin-421 produced by lymphatic endothelial cells induces chemotaxis for human melanoma cells | Pigment Cell Melanoma Res | 22 | 601-610 | 2009 |
| Saito A, Furukawa H, Yamamoto Y, | Use of the arcade vessels after disruption of the vascular pedicle of | Microsurgery | 29 | 499-501 | 2009 |

| | | | | | |
|--|--|---------------|----|---------|------|
| Sekido M, Sichinohe T, Kondo S | pedicled jejunum transfer for a recurrent esophageal cancer patient | | | | |
| Saito N, Sasaki S, Sekido M, Furukawa H, William M, Yamamoto Y | Efficacy of polidocanol sclerotherapy for capillary malformation with masked venous malformation | Dermatol Surg | 35 | 161-164 | 2009 |

研究成果の刊行に関する一覧表
 (2009年4月1日～2010年3月31日迄)

書籍

| 著者氏名 | 論文タイトル名 | 書籍全体の編集者名 | 書籍名 | 出版社名 | 出版地 | 出版年 | ページ |
|------|---------|-----------|-----|------|-----|-----|-----|
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

雑誌

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|---|--|-------------------|-------|---------|------|
| <u>Yamashita S</u> | Molecular targeted therapy for thyroid cancer in Japan: A call to reduce the backlog. | Endocr J | 56(8) | 919-920 | 2009 |
| Taira Y, Hayashida N, Zhavaranak S, Kozlovsky A, Lyzikov A, <u>Yamashita S</u> , Takamura N | Urinary Iodine Concentrations in Urban and Rural Areas around Chernobyl Nuclear Power Plant. | Endocr J | 56(2) | 257-261 | 2009 |
| Matsuse M, Mitsutake N, Rogounovitch T, Saenko V, Nakazawa Y, Romyantsev P, Lushnikov E, Suzuki K, <u>Yamashita S</u> | Mutation analysis of RAP1 gene in papillary thyroid carcinomas. | Endocr J | 56(1) | 161-164 | 2009 |
| Limsirichaikul S, Niimi A, Fawcett H, | A rapid non-radioactive technique for measurement of repair | Nucleic Acids Res | 37(4) | e31 | 2009 |